別紙様式１

平成２９年度学長戦略経費（重点分野研究プロジェクト）進捗状況報告

（平成３０年３月）

報告者氏名・所属	水上 丈実・教職大学院（旭川校）
研究プロジェクトの名称	地域に貢献する人材育成のための大学院生・学生の授業力向上プロジェクト ―北海道教育大学におけるマイクロティーチングの開発―
プロジェクト担当者(氏名・所属・職) ※代表者に●を付すこと	●水上 丈実・教職大学院（旭川校）・教授 藤川　聡・教職大学院（旭川校）・准教授

研究プロジェクトの概要等

本プロジェクトは，本学が，教員養成機能における北海道の拠点的役割を果たすため，教員に最も必要な授業力の向上を目指すことを目的とする。

現在，実際の授業実践を行う場は，学部においては教育実習しかない。また，教職大学院においても実地研究の中で，幼稚園・小・中学校などの現場にしかない。

そこで，本教職大学院では，授業の中でも，模擬授業を「導入・展開・整理」などに分割し，その中から目的に応じて一部分を切り取り，効果的に短時間で多くの学生が模擬授業に取り組むことのできる「マイクロティーチング」に着目し，実践報告と教育効果の検証を行っている。しかし，それらをさらに発展させる上でソフト面及びハード面において様々な課題を抱えている。

本プロジェクトでは，先行研究を分析，再構成し，本学における効果的なマイクロティーチング・カリキュラムを開発し，大学院や学部の各教科等の学部の授業でも，模擬授業やマイクロティーチングが手軽に行える環境整備（マイクロティーチング教室の常設）」を行い，近い将来，教壇に立つ際に最も必要な授業力の育成を目指す。

現在，次期学習指導要領の改訂に向けて，中央教育審議会では，論議が進んでいる。その中核にあるアクティブ・ラーニングや道徳の教科化などを体現するためにもその授業像を明確にするためのマイクロティーチング(模擬授業)が可能となるシステムづくりを進めたい。

進捗度	2	←番号を記入　１.順調に進んでいる　２.ほぼ順調に進んでいる ３.やや遅れ気味　４.遅れ気味

（進捗度が３若しくは４の場合、問題点等の理由を記入願います。）

予定した内容をほぼ順調に実施している。

研究実績の概要

【平成28年度】

１ マイクロティーチングが効果的に展開できるカリキュラムの開発

近年，北海道教育委員会をはじめ，各都府県や政令都市の教員採用試験では，模擬授業が行われる。つまり，新卒段階から実践的な指導力，端的に言えば授業力を求めていると言える。それらに対応するためには，その授業力の育成を実習や実地研究のみに求めるのではなく，大学・大学院においても，演習や事例研究の中で授業力育成が行われるカリキュラムを開発しなければならない。そこで，昨年度は，教職大学院授業開発分野の選択科目「子どもの学びを拓く授業づくり」の中でマイクロティーチングを取り入れた授業づくりを行った（資料１）。この授業の中で，４回のマイクロティーチングを行ったが， 明らかに，学習指導案の内容も，マイクロティーチングにおけるパフォーマンスも向上していた。

２ 専用教室「マイクロティーチングルーム」の整備

現在，教職大学院においては，授業開発分野の「子どもの学びを拓く授業づくり」の中で，マイクロティーチングを定型化し，毎年，改善充実させて実践している。しかし，複数の方向からビデオをセットし，録画した画像をその場で再生できる教室はなく，毎回の授業準備に時

間と労力を要している。授業会場で録画した授業を素早く再生し，ストップモーション方式により討議したくても，そのような設備環境は整ってはいなかった。

そこで，昨年度の予算すべてを使い，T104 教室に固定のカメラとマイク（教室前方から児童生徒側を録画録音，教室後方から指導者側を録画録音）を設置し，２画面に分けて録画・録音できるネットワークディスクレコーダーシステムを設計し，12月には完成させることができた。設計には，旭川校財務グループの井上幸恵氏が親身に相談にのっていただき年内に完成することができた。その後，教職大学院・授業開発分野のゼミにおいて，操作説明会とマイクロティーチングの試行を行うことができた。平成29年度の授業から本格的な活用を行う。

【平成29年度】

１ 常設のマイクロティーチングルームを使った実践の開始

本年度も，教職大学院授業開発分野の選択科目「子どもの学びを拓く授業づくり」の中でマイクロティーチングを取り入れた授業づくりを行った。本年度は，ストレートマスター４名に加えて，現職院生３名の受講があり，授業後のストップモーション方式による授業検討がより視点を絞った深い学びとなり，ストレートマスターにとって，実践的指導力の羽状がより図られた。また，ストレートマスターを中心に，自己課題解決・検証実習で行う授業の予備授業をマイクロティーチング室を利用して行い，現職院生に意見を求める動きが出ており，マイクロティーチングの活用に広がりがみられる。

２ 専用教室「マイクロティーチングルーム」の整備・充実

第１クォーターの教職大学院授業開発分野の選択科目「子どもの学びを拓く授業づくり」では，昨年度の予算の範囲内で授業を再生し映し出すスクリーンが４２インチの液晶画面と小さかったため，財務グループ吉川係長に相談にのっていただき，本年度の予算内で天井固定のプロジェクターと電動スクリーンを配備するための設計・施工を夏休み中におこなうことが出来，後期から自主ゼミ等で利用することが出来た。

３ 教育効果のデータ収集と学会発表及び論文投稿の準備

昨年の11月4日(土)～5日(日)に北海道教育大学の主催で行われたThe 8th Pacific Rim Conference on Educationにおいて，本ゼミ生のストレートマスターの廣田直弥君の発表「**About Teaching Practical English Skills to Students —Based on TBLT—**」の中でマイクロティーチングを紹介している。

すでに平成30年6月30日(土)～7月1日(日)に日本カリキュラム学会第29回大会が北海道教育大学旭川校で開催されることが決定しているが，その場で教育効果を発表する予定である。

今後の研究プロジェクトの推進計画

【平成30年度】

・マイクロティーチングルームの使用を学部などに開放する準備
・常設のマイクロティーチング室を使った実践の検証
・マイクロティーチングの方法をテキストにまとめる
・教育委員会との連携による活用（初任者研修会等での活用）の模索
・学会発表及び論文投稿(平成30年6月30日　日本カリキュラム学会第29回大会)
・研究のまとめ

教育現場や地域で活用可能な成果等

今後のプロジェクト計画にも掲載したが，北海道教育委員会や旭川市教育委員会の初任者段階研修会等にも，マイクロティーチングルームを開放することで，若手教員の資質向上に資することができると考えている。

また，マイクロティーチングの方法をテキストにまとめ公開することで，教育現場の研修の質的向上に資することができる。

研究成果の公表実績	
【著書】	
【学術論文】（投稿中も含む） 藤川聡・水上丈実・ナッタナン ムルサラドゥ・サンチラット ナンサアング「マイクロテ ィーチングの教育効果に関する一考察―教職大学院における協同学習の事例より―」北海道 教育大学紀要(教育科学編)第 65 巻第 2 号 平成 27 年 2 月 P201～211 （資料２）	
【学会発表、シンポジウム、セミナー、演奏会、展覧会、競技会、普及啓発イベント等】 １ 藤川 聡 日本カリキュラム学会第25回大会 学会発表「マイクロティーチングによ る授業力向上カリキュラムの検討」 平成26年7月 関西大学 参加者数約700名 ２ 藤川 聡 日本カリキュラム学会第26回大会 学会発表「マイクロティーチングを用 いた授業力向上カリキュラムの実践―教職大学院における学部卒院生と現職院生の共同 的な学び―」 平成27年7月 昭和女子大学 参加者数約800名 ３ 水上丈実 日本カリキュラム学会第27回大会 シンポジウム「アクティブ・ラーニング を効果的に取り入れた教育課程編成の実際」 平成28年7月 香川大学 参加者数約600名	
【テキスト、報告書、研修資料等】	
添付資料	＜資料１＞ 「子どもの学びを拓く授業づくり」シラバスと授業風景 ＜資料２＞ 「マイクロティーチングの教育効果に関する一考察 ―教職大学院における協同学習の事例より―」 ＜資料３＞ 「マイクロティーチングルームでの授業風景」
ダウンロード可能なドキュメント	https://jugyo-asahi-hue.jimdo.com
関連URL	https://jugyo-asahi-hue.jimdo.com
問い合わせ先	氏 名： 水上 丈実 （教職大学院旭川校） 電 話： 0166-59-1426 E-mail： mizukami.takemi@a.hokkyodai.ac.jp